

祝 能高創立70周年

七十年の時を越え

吹き起こせ 新たなる松陵の風



平成7年9月22日
編集人兼発行人
秋田県能代市高城2番1号
秋田県立能代高等学校新聞部
印刷所 陶大勝堂印刷

七十年の歴史を映して 栄光の式典本日舉行

創立七十周年という節目の年を祝い、創立記念日にあたる本日九月二十二日、能代市文化会館大ホールで記念式典が行われる。出席者は、特別

来賓、一般招待客、旧職員、同窓会、PTAを合わせ、三百十三名。
式典は午前十時開式。次第は以下の通りである。

○開式のことば
○「君が代」斉唱
○黙禱(同窓会並びに本校関係物故者追悼)
○校長式辞
○実行委員長挨拶
○来賓祝辞
○生徒会長挨拶
○感謝状並びに表彰状贈呈
○校歌斉唱
○閉式のことば

なお、本校生徒としては、七十周年メインテーマ及びボ

スター入賞者の次の四名が表彰される。
メインテーマ
採用
三年B組 工藤梢さん
入選
三年A組 佐藤和恵さん
三年B組 田村千早さん
ボスター
採用
三年C組 藤嶋蘭子さん
式典終了後は記念講演が行われる。

画室長 水木初彦氏
講師 朝日新聞東京本社総合企

大学入宅、東大在学中にはボート競技のフォークルードローマオリピックにも出場



閉会式：一人一人にメダルが

全国準優勝 おめでとう

八月二十五日から二十九日までの五日間、毎日気温二十五度が続く炎天下の中、兵庫県明石市で第四十四回全国高等学校軟式野球選手権が行われた。大会には地方を勝ち抜いた十八チームが参加し、熱戦を繰り広げた。
能代高校は、過去二回決勝戦に進出しており、昭和五十七年(一九八二年)より三回目の決勝戦進出を果たした。創立七十周年という我が校の記念すべき年に、全国大会準優勝という輝かしい歴史を刻みこんだ。



先日、芸術教室のチラシが配布された。キャッチコピーには、『今、我々は彼ら若き特攻兵たちが命をかけて希求した世を生きているか。』と記されていた。『私達は、決してYESと頷ける今を生きているとは言えない。』『「なんか退屈」とか、「面倒くさい」と言うのをよく耳につけ、又は、ゲームや雑誌で一時をただ過ごし、紛らわしてしまふことだ。でも、そこから得られる楽しさは、その時だけで、私達には何も残らない。』『平和は訪れ、私達は明日の自分、もしくは一年後の自分が何をできるのかさても予想できる世の中に、生きていく。一人一人が今日も一日何事もなくたつとを当たり前のこととして過して行く。』とあるもの、これだけ満ち足りた時代だからこそ、特攻兵たちが、限られた命の中で、平和のために戦ったように、全てをかけて、その一瞬一瞬を生きているのはかえって難しい。あらゆる物、あらゆる情報が後から後から入ってきて、自分の些細な欲求まで満たしてくれる。だが、求めなくとも入ってくる物や情報に自分を見失わず、自ら求めすぎれば、私達はあらゆる可能性をもつことができない。特攻兵たちが自分で選んだことのできなかった様々な選択が目の前にあるからだ。この、漫然と過ごすことが許される時代に流されず、私達自身が求めていけば、きっと自分だけのやり方で、この一瞬を最大限に生きられる手応えをつかむことができるだろう。

松陵魂の継承を

昨年の秋以来、創立七十周年の「七十年の時を越え、吹き起こせ 新たなる松陵の風」のスクーガンのもと、生徒会執行部は、生徒が一致団結して記念事業に参加することを第一の目標に掲げてきた。一月には、突然起こった阪神大震災の救済のため、素早く校内募金活動を行いました。被災者を少しでも勇気づけたという気持ちで学校中に広まって、予想以上の成果をあげることができ、今年度の生徒会活動に自信を持ちました。

五月には、硬式野球部・軟式野球部の招待試合が開催されました。青空のもと、選手達の全力でプレイする姿に感動し、そして何より全校応援という七十周年にふさわしい体験することができました。

六月、「ETERNAL WIND 永遠の風」をテーマに能高祭を盛大に行い、大



生徒会長 時田 修

体優勝した柔道部女子をはじめ、男子ソフトテニス部、体操部がインターハイ出場を果たしました。そして、あの軌跡の全力でプレイする姿に感動し、そして何より全校応援という七十周年にふさわしい体験することができました。

市民の方々からご声援をいただき、能代高校は地域の方々の暖かい心によって支えられていたのだということを改めて

七月、吹奏楽部の定期演奏会が、OBの方々の賛助出演をいただきながら、華やかに開催されました。

九月三日、昭和十三年以来の伝統行事である十里強歩がありました。あいにくの雨でしたが、同窓生の先輩方のご参加もあり、例年よりも高い完歩率を達成することができました。能高生である以上、雨などいかにせよ完歩を目指すというその心こそが、長年培われてきた「能高生魂」というものだと思います。氣力と体力の有限な限りを尽くして自分自身と戦う「松陵魂」を受け継いでいることを、我々は誇りに思います。また、地域の方々には大変なお力添えをいただきました。

七十周年を契機に、能代高校が真に新たな松陵の風を吹き起こすことができよう努力したいと思えます。

記念事業も着々と

創立七十周年を記念して次のような様々な事業が行われている。

○平成四年度
○前庭の整備
○平成六年度
○フレ七十周年企画として、本校旧十七期卒業生、岩瀬榮助氏の独唱会の開催
○学校入口への標柱完成
○記念事業看板設置
○校舎内の整備完成(図書館への個人ロッカー設置・視聴覚室・面接室へのコンピュータ導入・各教室の塗装・補修等)
○校舎前看板設置
○軟式野球招待試合(本荘

平成七年度
○校舎内の整備完成(図書館への個人ロッカー設置・視聴覚室・面接室へのコンピュータ導入・各教室の塗装・補修等)
○校舎前看板設置
○軟式野球招待試合(本荘

能高生にアンケート 歴史・名誉・誇りをどう思うか

九月二十二日の記念式典を迎えるにあたり、新聞部では、学校の歴史や名誉・名譽・誇りについて、生徒の意識調査を行った。

一、三年生から、任意に三クラスずつを対象にした。

今回のアンケートでは、二十年前の五十周年のときに行ったアンケートの質問事項と同じく、両者の結果、意見を比較して、現在の能高高校生の意識や、傾向を探ってみた。

今の私たちの姿をかえりみる何らかの手がかりになれば、と思う。

意見の中には、「入学当初から進学目的だったため、勉強ばかりで、学校の歴史を感じていなかった。」又は、「勉強をしながら来たわけなのであまり深く歴史について考えたことはない。」とある。

時代が移りかわり、学校を知る機会も減ってきた。生徒自身も、最近では、進学率などの周りの情報にだけ影響されて、この学校はこんな歴史・文化があるというところ、特別な意識していないのでは、ないだろうか。

三 「学校の名誉や評判」について

四 「学校の歴史についてどう思いますか。」

五 「学校の歴史は関係ない。」

六 「学校の歴史は関係ない。」

七 「学校の歴史は関係ない。」

八 「学校の歴史は関係ない。」

九 「学校の歴史は関係ない。」

十 「学校の歴史は関係ない。」

十一 「学校の歴史は関係ない。」

十二 「学校の歴史は関係ない。」

十三 「学校の歴史は関係ない。」

十四 「学校の歴史は関係ない。」

十五 「学校の歴史は関係ない。」

十六 「学校の歴史は関係ない。」

十七 「学校の歴史は関係ない。」

十八 「学校の歴史は関係ない。」

十九 「学校の歴史は関係ない。」

二十 「学校の歴史は関係ない。」

二十年前は、「ある」が五十四パーセント、「ない」が四十六パーセントと、大体半分の割合だったのに対し、現在は「ある」が七十六パーセント、「ない」が二十四パーセントとなっている。「ある」と答えた人の割合は二十年前の半分は減少したものの、そう感じる時は「親類や、他の人に誉められたとき」「本校が各種分野で活躍したとき」「行事で盛り上がり、たまたま成功したとき」など、様々な理由がある。二十年前は「ある」が五十四パーセント、「ない」が四十六パーセントと、大体半分の割合だったのに対し、現在は「ある」が七十六パーセント、「ない」が二十四パーセントとなっている。「ある」と答えた人の割合は二十年前の半分は減少したものの、そう感じる時は「親類や、他の人に誉められたとき」「本校が各種分野で活躍したとき」「行事で盛り上がり、たまたま成功したとき」など、様々な理由がある。

二十年前は、「ある」が五十四パーセント、「ない」が四十六パーセントと、大体半分の割合だったのに対し、現在は「ある」が七十六パーセント、「ない」が二十四パーセントとなっている。「ある」と答えた人の割合は二十年前の半分は減少したものの、そう感じる時は「親類や、他の人に誉められたとき」「本校が各種分野で活躍したとき」「行事で盛り上がり、たまたま成功したとき」など、様々な理由がある。

二十年前は、「ある」が五十四パーセント、「ない」が四十六パーセントと、大体半分の割合だったのに対し、現在は「ある」が七十六パーセント、「ない」が二十四パーセントとなっている。「ある」と答えた人の割合は二十年前の半分は減少したものの、そう感じる時は「親類や、他の人に誉められたとき」「本校が各種分野で活躍したとき」「行事で盛り上がり、たまたま成功したとき」など、様々な理由がある。

一、学校の歴史についてどう思いますか。

二、学校の歴史は関係ない。

三、学校の歴史は関係ない。

四、学校の歴史は関係ない。

五、学校の歴史は関係ない。

六、学校の歴史は関係ない。

七、学校の歴史は関係ない。

八、学校の歴史は関係ない。

九、学校の歴史は関係ない。

十、学校の歴史は関係ない。

十一、学校の歴史は関係ない。

十二、学校の歴史は関係ない。

十三、学校の歴史は関係ない。

十四、学校の歴史は関係ない。

十五、学校の歴史は関係ない。

十六、学校の歴史は関係ない。

十七、学校の歴史は関係ない。

十八、学校の歴史は関係ない。

十九、学校の歴史は関係ない。

二十、学校の歴史は関係ない。

二十年前は、「ある」が五十四パーセント、「ない」が四十六パーセントと、大体半分の割合だったのに対し、現在は「ある」が七十六パーセント、「ない」が二十四パーセントとなっている。「ある」と答えた人の割合は二十年前の半分は減少したものの、そう感じる時は「親類や、他の人に誉められたとき」「本校が各種分野で活躍したとき」「行事で盛り上がり、たまたま成功したとき」など、様々な理由がある。

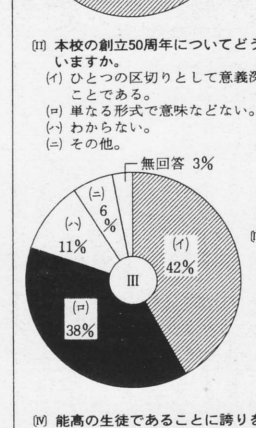
二十年前は、「ある」が五十四パーセント、「ない」が四十六パーセントと、大体半分の割合だったのに対し、現在は「ある」が七十六パーセント、「ない」が二十四パーセントとなっている。「ある」と答えた人の割合は二十年前の半分は減少したものの、そう感じる時は「親類や、他の人に誉められたとき」「本校が各種分野で活躍したとき」「行事で盛り上がり、たまたま成功したとき」など、様々な理由がある。

二十年前は、「ある」が五十四パーセント、「ない」が四十六パーセントと、大体半分の割合だったのに対し、現在は「ある」が七十六パーセント、「ない」が二十四パーセントとなっている。「ある」と答えた人の割合は二十年前の半分は減少したものの、そう感じる時は「親類や、他の人に誉められたとき」「本校が各種分野で活躍したとき」「行事で盛り上がり、たまたま成功したとき」など、様々な理由がある。

二十年前は、「ある」が五十四パーセント、「ない」が四十六パーセントと、大体半分の割合だったのに対し、現在は「ある」が七十六パーセント、「ない」が二十四パーセントとなっている。「ある」と答えた人の割合は二十年前の半分は減少したものの、そう感じる時は「親類や、他の人に誉められたとき」「本校が各種分野で活躍したとき」「行事で盛り上がり、たまたま成功したとき」など、様々な理由がある。

今、松陵に吹く風は… 七十周年特集その1

四十一年前の能高生 新制六期 菅野 淳子



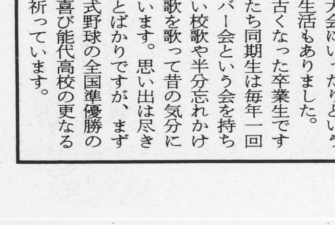
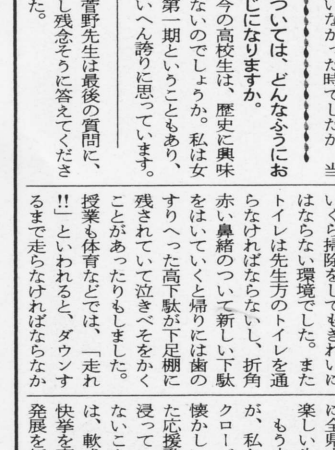
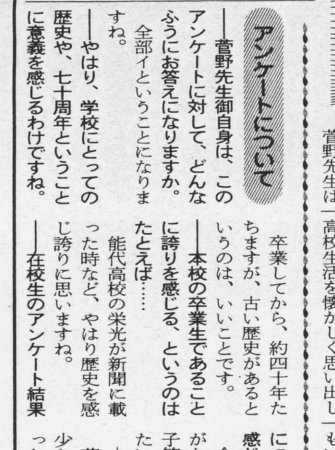
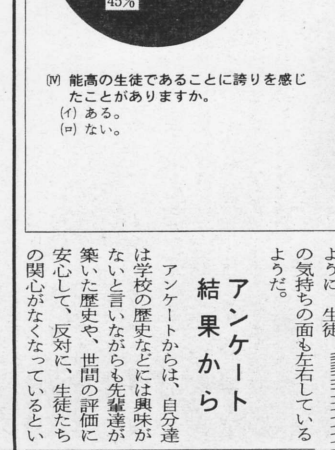
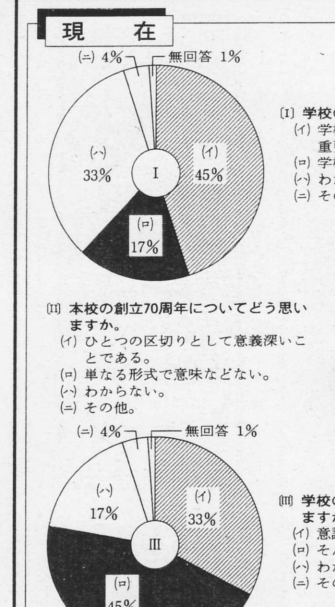
本校の女子第一期生。その当時の懐かしい思い出を語ってくださった。

また、今回在校生に行ったアンケートの結果についてもコメントを頂戴した。

開校七十周年と聞き、指を折りながら数えてみると、はやく四十年、私たちが能高高校を卒業してから、半世紀近い年月が過ぎたことに気が付く。昔の人になりつつあるなあと、反面、私にもあつたような、生徒の気持ちの面も左右しているようだ。

開校七十周年と聞き、指を折りながら数えてみると、はやく四十年、私たちが能高高校を卒業してから、半世紀近い年月が過ぎたことに気が付く。昔の人になりつつあるなあと、反面、私にもあつたような、生徒の気持ちの面も左右しているようだ。

開校七十周年と聞き、指を折りながら数えてみると、はやく四十年、私たちが能高高校を卒業してから、半世紀近い年月が過ぎたことに気が付く。昔の人になりつつあるなあと、反面、私にもあつたような、生徒の気持ちの面も左右しているようだ。



その2

市立図書館司書の方

また、自分より速い人は、のりよく泳ぎをしているのだから、良いところを盗めるだけ盗んでこうという目的もありました。結果は、ベストタイムで泳ぐこともできず惨敗でした。つまり、自分の持てた未知以上のものは出すことができません。情けなかつたのです。しかし、いろいろなことで、自分にプラスになることを見て、知って、覚えることがもう一度チャレンジしたいと思えます。」とそれぞれ思いを語ってくれた。

でもがんばった！



GT-R V-Spec

——最後に愛車に対する思いを一言

今の車が一番だから乗っています。これからどんな思い出がでるかかわらないが、番思いの出る車は六十三年に買ったアラ二八〇です

節ドドライバーです



合は

中村先生

います。これからどんな思い
出ができるかわからないが、一
番思い出のある車は六十三年
に乗ったソアラ二八〇です。



範ドライバーです。



今は

今は模範ドライバーです。